

平成29年度 明石市地域自立支援協議会

しごと部会 リポート Vol. 21 平成29年4月7日発行

発行元：明石市地域自立支援協議会 しごと部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター 1階）
電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています

しごと部会のワーキング活動『B型事業所ネットワーク』活動報告

平成28年度のB型事業所ネットワークは、自主製品の販路拡大や日々の支援の困りごとなどを共有するために事業所職員が集い、意見交換を行っています。

平成28年度の活動は、「①販売活動の促進」、「②製品づくりのスキルアップ」、「③支援の質の向上」をテーマに掲げて取り組んでいます。

～活動実績～

①販売活動の促進…自主製品の販売先(販路)の拡充として「ワンコインきすな」や「コープこうべの販売」などの活動に取り組んでいます。※平成28年1月より販売開始

「ワンコインきすな」（兵庫県立清水高校内での自主製品販売/雑貨や食品の販売）
参加事業所（6事業所）：ふれあい作業所、こぐまくらぶ、木の根学園、就労支援あーち、Small Steps、サポートセンター曙



100円（ワンコイン）で販売（無人販売）しています。今後は、販売できる高校を増やしていく予定です。併せて参加事業所も募集しています！！

「コープこうべの販売」（コープこうべ大久保店で自主製品販売/雑貨や食品の販売）
参加事業所（9事業所）：ふれあい作業所、こぐまくらぶ、明石錦城の園、明石ビレッジ、サポートセンター翔、ハッピークラフト、木の根学園、就労支援あーち、サポートセンター曙

- 平成28年10月25日(火) 参加事業所：サポートセンター翔、こぐまくらぶ明石
- 平成28年11月30日(水) 参加事業所：ふれあい作業所、明石ビレッジ
- 平成29年 2月21日(火) 参加事業所：錦城の園、ハッピークラフト

10：30～14：00間の販売です。1事業所あたり4000～7000円の売上があります。



明石市地域自立支援協議会 しごと部会

手づくり市

障害福祉施設の自主製品販売

②製品づくりのスキルアップ…自主製品の製作にあたって必要な知識や技術の向上(ブランディング、POPづくりなど)を目指し、取り組んでいます。

- 平成28年 8月16日(火) 「ディスプレイ」
- 平成28年10月18日(火) 「POPづくり」
- 平成28年12月20日(火)、平成29年2月21日(火) 「ブランディング」
講師：プリズムデザインラボ 畠 健太郎氏（全4回開催）



平成 28 年 10 月 18 日 (火) 「ポップづくり」 講師：島 健太郎氏

- 1) ポップとは…アイキャッチ (注意を惹くこと、誘導させること)
パソコンは、手軽に作成ができるが、レイアウトが単一化されやすく、サイズ感に縛られ易い特徴がある。手書きは、
①サイズ感 (形、大きさなど) に気にせず作成ができる、②自由な発想で作成ができる、③その場で作成できる融通
さがある、などの特徴がある。
- 2) 作成のポイント
 - ①手書きの文字の風合い
 - ・マーカー (マジック) を使用する。(ペン) 先の使い方を工夫する。縦は太字、横は細字 (同じ筆圧で書く、太字 (細字) を強調する。シルエットで影 (モチーフ) を書く。周りに色を付ける。
 - ・文字や数字以外にお数字やモチーフや影絵を入れる。
 - ②台紙の形
 - ・様々な形に台紙を切る (口…きっちりした感じ、○…柔らかい、緩い感じ、ギザギザな形 (☆)…ビックリした感じ)。
目的 (商品内容、PR) をキャッチフレーズは別に作成する。
 - ③色を重ねる
 - ・文字や数字の色を重ねる。色を変えて重ねる。影を付ける (外側と内側を区別する)。
 - ④目的 (商品内容、PR) を書く
 - ・販売の際に情報を明確にする (例えば 体に優しい野菜、何度も使えるアクリルたわしなど、販売の際に役立つ、必要な情報を書く)。
 - ⑤形を組み合わせる
 - ・それぞれカットした形を組み合わせる。形同士を合わせる (ダイナミックス)。
 - ・A3サイズのポップでも会場では小さく見える。紙が白地の場合、空間を埋めることが必要であるが、色紙を用意すれば手間を省くことができる。

③支援の質の向上…事業所内での困りごとや支援面での悩み等に共有や検討をしています。

- ・平成28年12月20日(火) 「通所が遠退いている利用者へのアプローチ」
- ・平成29年 2月21日(火) 「本人と母親の思いが乖離している際に考えられるアプローチ」



平成 28 年 12 月 20 日 (火) 「通所が遠退いている利用者へのアプローチ」 (グループワーク)

- 『通所が遠退いている要因』
- * 本人自身のこと (体調や気持ち)
 - ・精神的に不安定になっている (入院・再燃)。服薬調整ができていない・副作用、眠れていない・朝が起きられない・昼夜逆転している。通所したいけど体調がそぐわない (通所がしんどい)。寒いので家を出られない。仕事のペースを保てない・頑張り過ぎてしまう・休んではいけないと思っている。就職活動をしている。将来のことを考えて焦ってしまう。
 - (アプローチ方法)
 - ・本人の気持ちに寄り添う。主治医との連携 (通院同行)。生活リズムの見直し (睡眠表を付ける)。今からでもいいよと通所を促す (いつでも待ってるよ)。
 - * 作業所内でのこと (対人関係)
 - ・苦手な利用者・職員がいる。人が多い。話相手がいない。他の利用者と一緒にされたくない。注意されるのは嫌。
 - (アプローチ方法)
 - ・本人の気持ちに寄り添う。利用者間で話合いを行う。本人の落ち着く環境で話を聴く。相手の良い所について話をする。利用者の少ないに通所を促す。作業場を変える。休憩しながらでも作業できる体制を考える。作業所の閉所後に来所を促す (話を聴く)。
 - * 作業所内でのこと (物的環境)
 - ・作業が自分に合っていない・できる作業がない。仕事がしんどい。楽しくない。作業所の方針と合わない。弁当代が払えないので通所ができない。給料が安い。作業ではなく話がしたい。作業場が騒々しい。食事が合わない。
 - ・気に入ったメニューがない。居場所がない。
 - (アプローチ方法)
 - ・本人に気持ちに寄り添う。通所の際に話を聴く。体調に合わせて作業を選んでもらう。仕事のペースを見直す。頑張っていることの評価を行う。自信になる作業を勧める。他の作業を勧める。レクリエーションを導入する。給料を見直す。他の作業所を勧める (本人に合った作業所を探す)。
 - * 家族 (家庭) のこと
 - ・家事に忙しい。家族と揉めている。家に居る方が居心地が良い・他の楽しいことができた。家族が作業所の利用の必要性を感じていない。家族が通所させたくないと思っている。
 - (アプローチ方法)
 - ・家族の気持ちに寄り添う。本人・家族を交え、話を聴く。家族教室の案内を行う。福祉サービスの活用や導入を考える。